

赤磐市では教育の質の向上と教職員の心身の健康維持のため、働き方改革を推進しております。その一環として校園長研修会を開催しました。



講師

株式会社先生の幸せ研究所
代表取締役社長 澤田真由美 氏

東京都と大阪府の小学校教員として約10年間勤務。教師として悩みぬいた自身の経験から、技術も心も豊かな幸せな教育者を増やしたいと会社を設立されています。

<研修会でのキーワード>

①学校の「〇〇べき」を問い直す

②自助・共助・公助

① 学校の「〇〇べき」を問い直す(クリティカルシンキングとバイアス)

学校や園には「〇〇べき」「〇〇しなければならない」がいくつもあります。例えば「掃除は〇〇べき」「休み時間は〇〇べき」「宿題は〇〇べき」「行事は〇〇でなければならない」……などです。中には、目的を確認することなく継続し、形骸化しているものもあるのではないのでしょうか。

学校や園の教育目標(どんな子どもを育てたいのか、どんな学校にしたいのか)を具体的に考えた時に、その「〇〇べき」「〇〇なければならない」は本当に重要なのか?捨てることのできないものなのか?と、問い直すことが重要です。

学校や園の子ども達にとって本当に大切な「〇〇べき」に焦点化し残していくことで、教育の質の向上が期待でき、教員の負担軽減にもつながります。

② 自助・共助・公助

ワークショップでは「勤務時間の中で1日30分を生み出すための工夫」について「〇〇べき」を問い直す視点をもとに話し合いました。

また、出された意見を誰の力で実行することができるかを分類しました。例えば

<自助(自分で実行できること)>

- ・定時退庁日を個人で設定する。
- ・週案を簡素化する。等

<共助(組織で実行できること)>

- ・朝の会や帰りの会を行わない。
- ・清掃を行う日を限定する。等

<公助(行政が実行すること)>

- ・業務アシスタント等の人員の増員する。
- ・登園システムを導入する。等

※これらのアイデアは即実行するといった質のものではありません。あくまで、「できるかも」というアイデアを出し合ったその一例です。



○ 研修後の感想 ○

- ・できるだけ既成概念にとらわれずに考えてきたつもりだが、研修を通してまだ新たな発想が生まれる可能性を感じた。
- ・(自分の考えに)バイアスがかかっていると意識するだけでも、判断の妥当性が高まる。
- ・(職員同士の)「雑談の中に発見がある」ことは経験している。ちょっとした雑談のできるゆとりをもてるよう、対応可能な小さな工夫はすぐにも実行したい。

各校の「〇〇べき」を問い直し、本当に大切にすべきことを焦点化することで、学校の特色が発揮される可能性も感じました。また、今まさに目の前の課題に向き合おうとくださっている校長先生方の姿がとても印象的で前向きで活発な研修となりました。赤磐の子どもや先生方に笑顔が増えることを期待しています。